

第 44 回大阪市男女共同参画審議会 会議要旨

1 日時 令和 6 年 9 月 5 日（木） 15 時から 16 時 40 分

2 会場 大阪市役所本庁 5 階 特別会議室

3 出席者

（審議会委員）

朴木会長、大束委員、小林委員、佐伯委員、鈴木委員、千田委員、高見委員、
徳野委員、鳥生委員、中田委員、野上委員、前田委員、山下委員、梁委員

（事務局）

福岡市民局理事、西山女性活躍推進担当部長、浅井男女共同参画課長、西田雇用女性活躍推進課長、村上男女共同参画課長代理、松井配偶者暴力相談支援センター担当課長代理、萩平雇用女性活躍推進課長代理、奥（紗）男女共同参画課担当係長、奥（尚）男女共同参画課担当係長、斎藤男女共同参画課担当係長、上野雇用女性活躍推進課担当係長

（大阪市男女共同参画推進本部）

新海総務局人事部人事課長、片桐健康局健康推進部健康施策課長、中村こども青少年局企画部企画課長

4 議題

（１）開会

（２）議事

・ 令和 5 年度の取組状況について

（３）その他

・ 困難な問題を抱える女性への支援のための施策の実施に関する基本的な計画について

5 配付資料

資料 1 施策の基本的方向と具体的取組みの概要

資料 2－1 大阪市男女共同参画基本計画 令和 5 年度実施状況報告

資料 2－2 課題と今後の方向性のまとめ（特にご意見をいただきたい点）

補助資料 具体的取組にかかる事業の進捗管理票

資料 3 大阪市困難な問題を抱える女性への支援のための施策の実施に関する基本的な計画の概要

資料 4 大阪市女性相談支援員による支援状況について（R6.8.31 時点）

資料 5 令和 5 年度事業にかかる外部評価（後日意見）

- 参考 1 大阪市男女共同参画審議会委員名簿
参考 2 大阪市男女共同参画審議会規則
参考 3 大阪市男女共同参画審議会運営要領
参考 4 出席者名簿
参考 5 配席図
参考 6 大阪市男女共同参画基本計画～第 3 次大阪市男女きらめき計画～（概要版冊子）
参考 7 女性活躍リーディングカンパニー（企業用チラシ）

6 会議要旨

（１）開会

（２）議事

○令和 5 年度の取組状況について

事務局より資料 1 及び資料 2－1、2－2 に基づき説明を行い、委員の意見を聴取した。

① 資料 2－2 『企業における女性の活躍推進（「女性の健康問題への理解」促進へのアプローチ）』について

- ・ 女性特有の健康問題について、男性のみならず女性自身の理解も進んでいないため、助産師や保健師など専門的な立場からアドバイスできる人材を企業に紹介、助成などできないか。あるいは、制度についての普及啓発ができないか。
- ・ 理解度にも個人差があるため、e ラーニングによる啓発であれば、最終的な理解度のチェックを実施することで一定の効果がある。各企業でコンテンツを用意することは難しいため、アクセスすると誰でも見られるものがあれば良いと思う。
- ・ 女性の参画拡大の中で大事なのは、女性管理職の割合の増加だと考えるが、令和 5 年度においては「大阪市女性活躍リーディングカンパニー」が増えているにも関わらず女性管理職割合が減っている。要因および「大阪市女性活躍リーディングカンパニー」の施策の効果について、詳細に分析していただきたい。
- ・ 中小企業は、女性の管理職のロールモデルとなる先輩が少ない。アプローチとして、地道なセミナーでの啓発活動や相談機能の充実が考えられる。中小企業が取り組んでいる良い事例の発信が有効だと思う。女性の健康問題については、管理職層になると、更年期を迎えるにあたり不安だけれども、女性の先輩が少なく男性の上司が多いので相談するのが憚られるとの意見があった。相談先があれば心強いと思う。
- ・ 本審議会の事務局には女性管理職が多いので、市がロールモデルとして、女性管理職が増えたことによって組織の中でこんないいことがあったというようなことを発信し、浸透させることができる立場にいると思う。
- ・ 啓発に力を入れているものの、女性管理職数が減少している。女性の二重負担が減らない中で、女性に「もっと活躍してくださいね」「管理職になってくださいね」と言われて

も、当人にあまり響かないのでは。啓発の仕方を考える必要がある。例えば、男性も含めて女性特有の健康問題を理解するために、e ランニングなど様々なツールを使って促進させていくことも大事である。一方で、健康面の問題と付き合いながらうまく働ける仕組みづくりをすることが大切ではないか。

- ・リモート等の柔軟な働き方を整備するための資金やノウハウを持ち合わせていない企業への補助があれば、女性の管理職の増加や就労継続に繋がるのではないか。

② 資料 2－2 『女性の地域活動への参画促進のための環境づくり』について

- ・女性が社会で活躍するためには、男性の協力や男性も自覚をもって家庭の役割を果たしていくのが大事と思う。男性にもしっかりアプローチをかけて取組を進めていただきたい。
- ・地域においては、世代が入れ替わるにつれ、男性も女性も一緒にやっという、男性の女性の参画に対する意識が変わってきていると感じている。担い手が少ないので、女性も積極的に発言して、もっと地域で活躍する女性を増やしていく必要がある。
- ・地域行事の参加割合は男性が多い一方で、女性がいないと成り立っていないイベントなどもたくさんあると感じている。地域行事の際に、イベントを支えている地域の方や団体さんを紹介して、このような方々がやっという、自分も参加できるんだということを広く周知するとともに、若者への啓発も行っという。

③ 資料 2－2 『男女共同参画に関して、特に若年層や行政に関心の薄い層への効果的な啓発手法』について

- ・若年層への啓発の方法としては「考えてもらっ」ことが必要だと思っ。例えば、包括連携協定を結んでいる大学とプロジェクトに取り組むことで、大人とは違っ視点から、関心の薄い層への啓発を検討してもらっこともできるのではないか。
- ・若年層に関しては、市内の大学や高校生を対象に企画コンテストの開催などがあれば、一生懸命取り組んでくれるのではないか。
- ・様々な情報発信ツールを利用しているが、なかなか実績に結びついていないという部分がある中で、LINE を使った相談だけは増加している。他ツールとのリーチの差について、分析を行っ。